

生産性UPのための監視カメラ活用

主 に防犯目的で使用されてきた監視カメラに、クラウド技術を組み合わせた新たな活用法が急浮上。
建築・建設業界、電力業界、工場・倉庫などの注目システムとは。

慢性的な人員不足や各種法規制の強化、異常気象や資材高騰による影響など、不安定要素に包囲されたような状況のビジネス環境。業務効率化と生産性向上は企業の永遠の課題だが、近年はまさに事業の成否を分ける最重要課題と化している。もはや避けて通れない壁を、どう乗り越えるのか。ひとつの方策としてクラウド技術を組み合わせた監視カメラの活用だ。

実は今、ビデオ監視ビジネスが急成長を遂げていることをご存じだろうか。2024年からの年平均成長率(CAGR)は12.5%、6年後の市場規模は1486億8000万米ドルに達するという予測※もある。防災のためのライブカメラや被災現場のモニタリング、交通監視や侵入検知、繁華街や街路、通学路での犯罪抑止と、需要は高まるばかり。そして、有効な活用法のひとつに数えられているのが、作業管理・品質管理・安全管理などを含めた現場作業の効率化なのだ。

石川県に本社を置く株式会社Jシステムが開発した「アクティブネット」は、監視カメラサービスを軸としたクラウド映像管理システムだ。開発・カスタマイズから設置・運用までワンストップでスピーディに対応でき、従来型の防犯・監視を越えて生産性向上に貢献できる性能を備えることから、全国の建設・建築会社や電力会社などを中心に導入例が相次いでいる。

安全確保と作業効率化を両得

アクティブネットは、多数のカメラ・現場・利用者を一元管理できるのが特徴だ。たとえば大手の建設会社では、多様なプロジェクトが全国規模で同時進行しており、そのすべてで段階確認や材料確認など有資格者の立ち合いを要する工程が存在する。当然、現場への移動時間や写真撮影などの記録作業などが発生するが、もしもリモートで対応できれば生産性は劇的に向上するはずだ。そこで映像の出番となるわけだが、アクティブネットでは現場各所の全カメラ映像を集約するマルチ画面表示をはじめ、多様な機能を搭載。また、稼働中の他社製カメラを各サービスにログインすることなくそのまま使えるなど、柔軟なシステムを構築できるのが利点となっている。

アクティブネットは、安全管理の面でも大きな役割を果たす。たとえば、大規模な地震では電源を喪失した被災地でも状況把握を迫られることになるが、同社ではスターリンクや太陽光パネルを組み合わせた監視体制で映像の配信・録画を強力に支援。また、暑さ指数から気温・湿度・風向・風速・雨量まで気象情報を一括して観測できる「アクティブウェザーミックス」を併用すれば、ライブ映像との組み合わせで台風の進路上にある全現場の状況を細かく把握し、安全確

保と作業効率化を両得することもできる。自社製カメラ製品も充実しており、ウェアラブル型や定点設置型、ドライブレコーダー型など、用途に応じて選べるラインアップを確保。

ISO認証やNETIS認証を取得し、セキュリティ面も万全を期す。

同社では、今後は映像のさらなる高精細化やマルチデバイス化のほか、各種センサーやAIなどを駆使したデータ解析機能の強化も推進する意向とか。人材難が深刻化する業界にとっては生産性向上の決め手となり得るだけに、ぜひ期待したいところだ。

※ビデオ監視およびVaaSの市場規模。株式会社グローバルインフォメーション「ビデオ監視およびVaaSの市場規模 シェア、動向分析レポート」タイプ別・業界別・地域別・セグメント別予測 2024年〜2030年(J) (Grand View Research, Inc.)



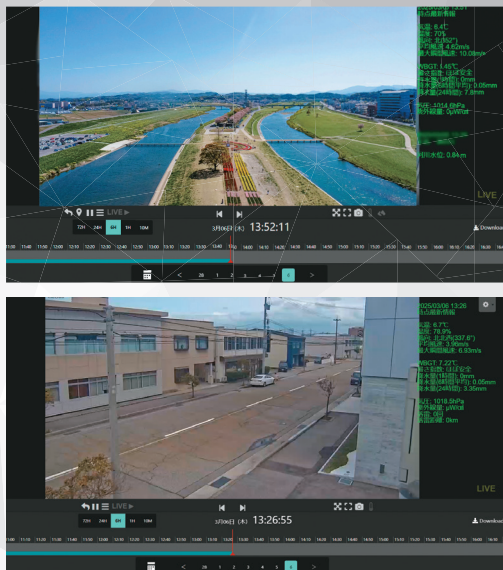
Jシステムでは、昨年末より新CMをオンエア中。システムエンジニア役で出演しているのは、地元・石川県出身の俳優、坂田秀晃さんとnon-noモデルの林芽亜里さん。ちなみに、撮影場所は同社の社内だそう。



J SYSTEM
— Be proactive. —

お問い合わせ **株式会社Jシステム**

石川県金沢市問屋町1丁目78番地 TEL.076-216-7121
<https://www.activ-system.com/>



ActivCamera

シングル画面では気象観測・水位などのセンサーと連携しているため様々な情報が一面で確認できる。設定ボタンでカスタマイズも可能だ。

